私は普段からおっちょこちょいなので、失敗談は数多い。

夏の斜里岳では、渡渉ポイントで靴を濡らしたくないとためらったのが悪く、着地に失敗してウォータースライダーし、沢登りでもないのに全身ずぶ濡れになった。冬のポンネアンチシ～余別～積丹岳縦走では、ホワイトアウトの中、余別から積丹へ向かう途中、自分の右足の蹴りで左足のアイゼンが外れ、外れたアイゼンは奈落の底へ（自分の内股歩きを呪った）。その後を追うように私自身も滑り落ちていった。私が後ろから付いてきていないことに気づいた夫と、しばらく後に谷底で無事合流した（奇跡の無傷で良かった）。

最近の失敗と言えば、沢例会で行った珊内岳だ。山頂のテント泊では、漁火と星空が楽しめるとの事前情報を楽しみに行ったが、本当にそのとおりで、天の川まで見える満点の星空と、水平線近くに浮かぶ月、水平線に並ぶたくさんの漁り火に、いつまでも見入っていた。大満足でテント内に引き上げたが、なんだか右のまぶたがかゆい。どうやら蚊に刺されたらしい。2、3日まぶたが腫れるかな、くらいの軽い気持ちで薬をつけて眠りについた。ところが翌朝目を覚ますと、右目が全く開かないではないか。鏡を見ると、こてんぱんにやられたボクサーのように顔面右側が腫れ上がっている。いったい何に刺されたんだ…。下山は、片目で遠近感がうまくつかめず苦勞し、ずいぶん時間がかかってしまった。あの時、あんなにのんびり景色を眺めていなければ…。

夫にいつも、油断しすぎだと言われるが、全くそのとおりである。先日のシシャモナイクライミングでも、蚊とヌカカに足首を集中攻撃され、片足につき20か所くらいお食事されてしまった（夫はちゃんと靴下で保護していたため、被害は少ない）。なかなか性格とは変わらないものだ…。